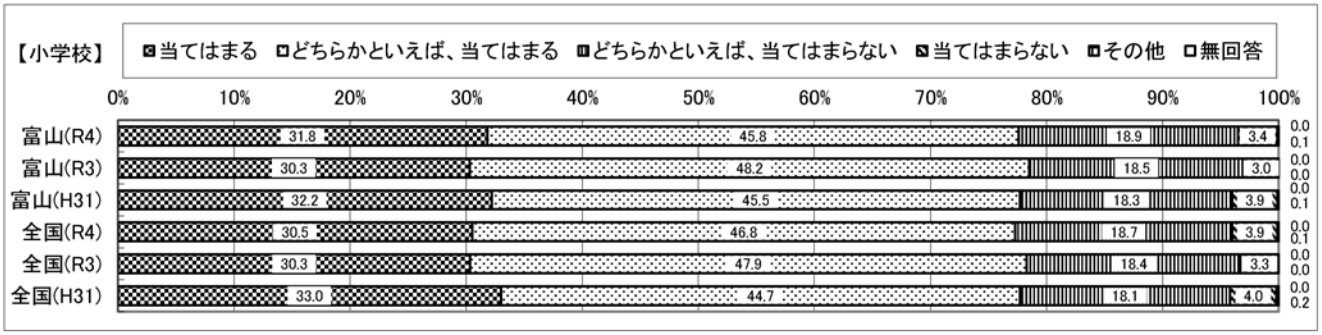
Ⅳ　児童・生徒質問紙調査結果の概要と分析

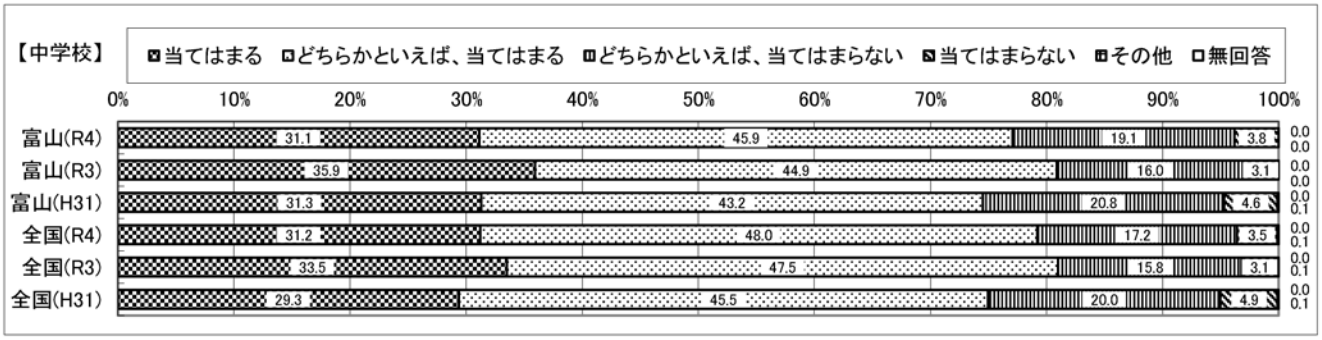
1　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

(1)　５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（質問小中 39）

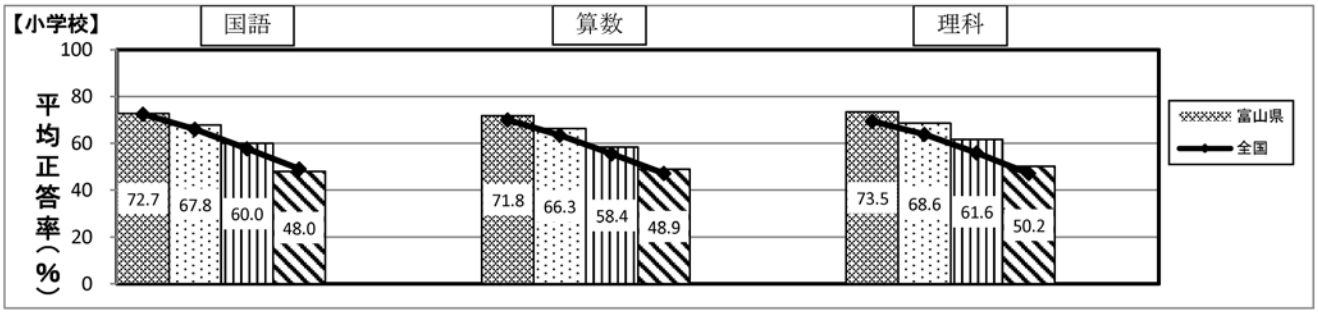
・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、令和３年度と比べて小学校では0.9ポイント、中学校では3.8ポイント減少している。

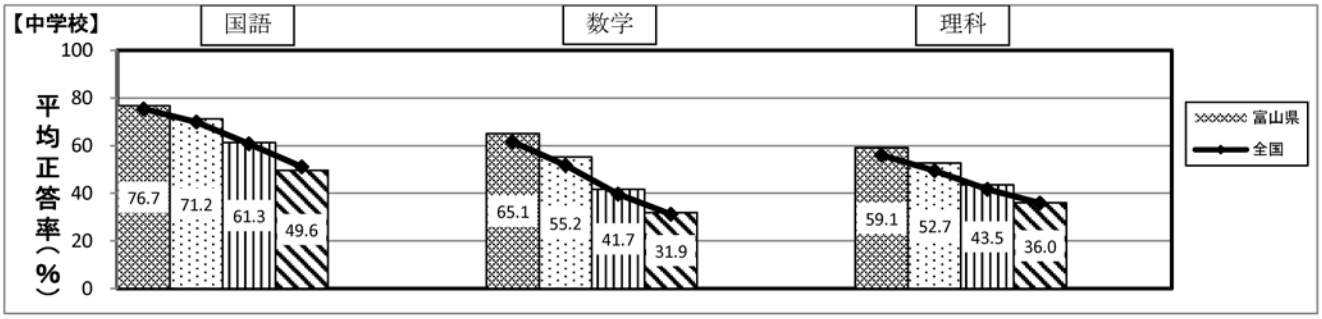
◎導入時の事象の提示や学習環境の工夫等により、問題(課題)意識や学習意欲を高めたり、課題解決の過程において自己調整しながら学習を進めたりすることができるよう、教師の手立てを工夫することが大切である。





児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計（令和４年度）

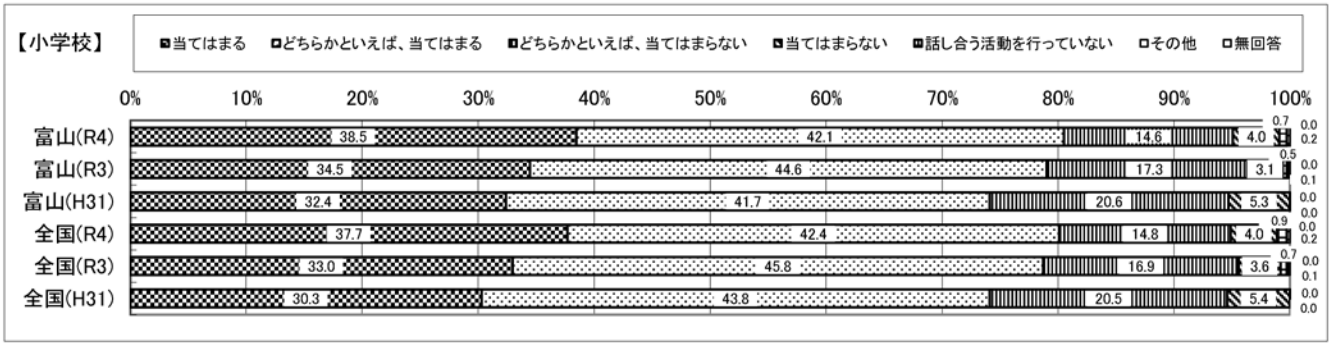


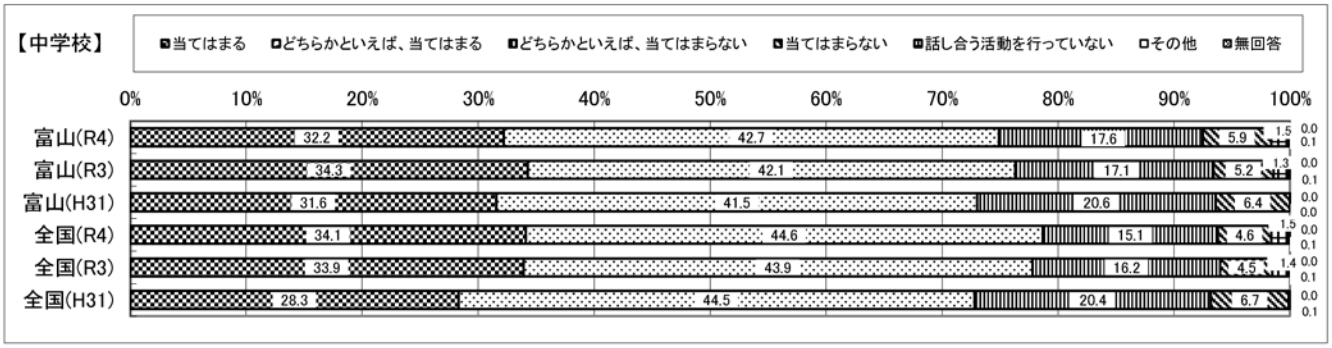


当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

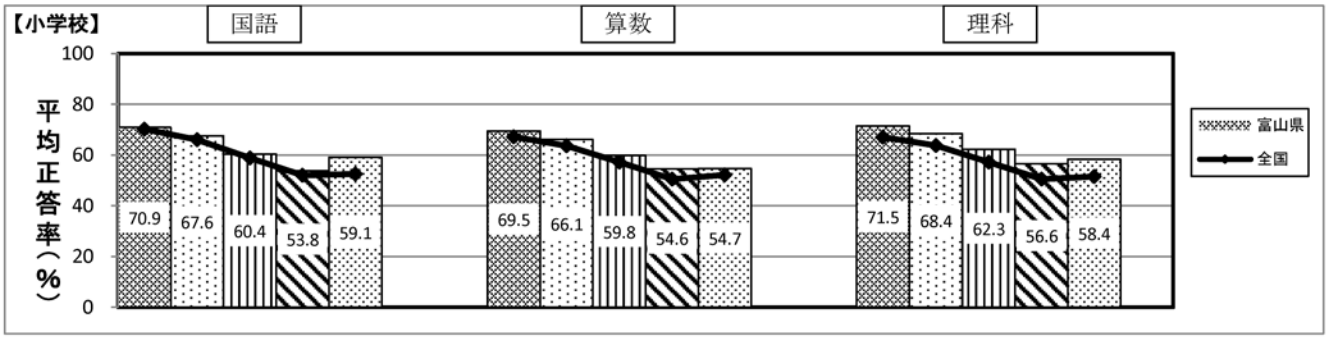
(2)　学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか（質問小中 43）

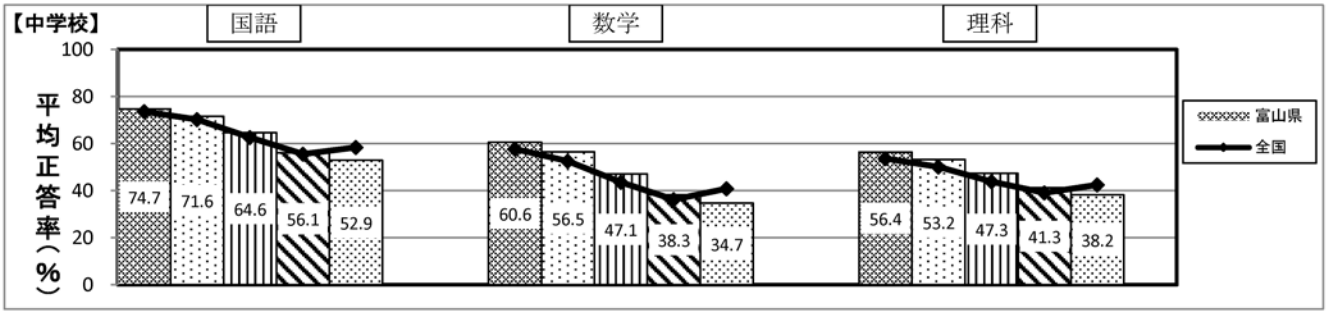
・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校では同程度であるが、中学校では3.8ポイント低い。
◎思いや考えを基に創造する場の充実等、自己の考えを広げ深める視点に立った授業改善が大切である。





児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計（令和４年度）



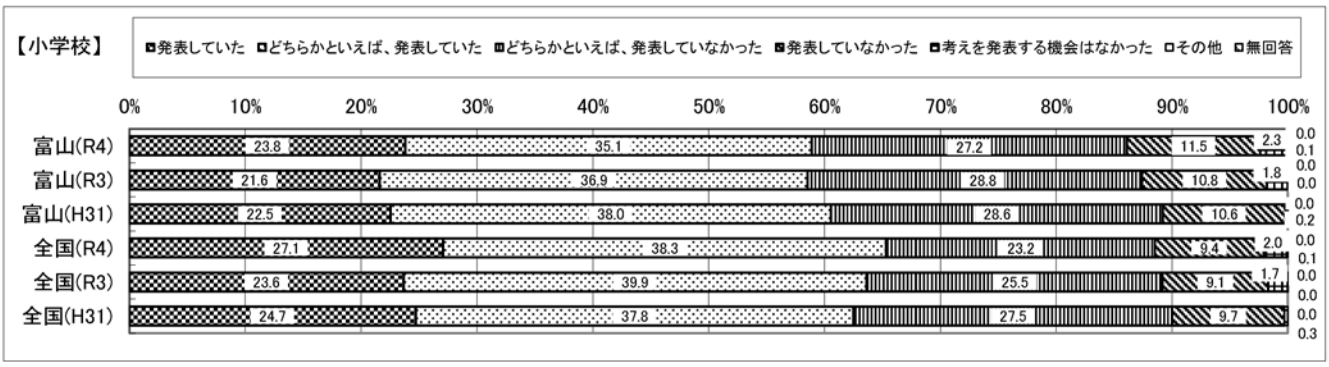


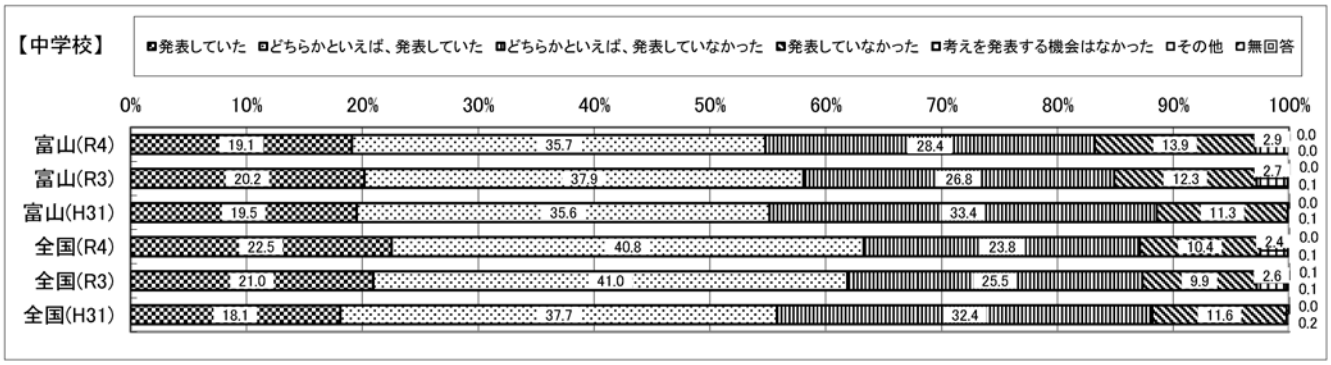
当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない
当てはまらない　話し合う活動を行っていない

(3)　５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか（質問小中 38）

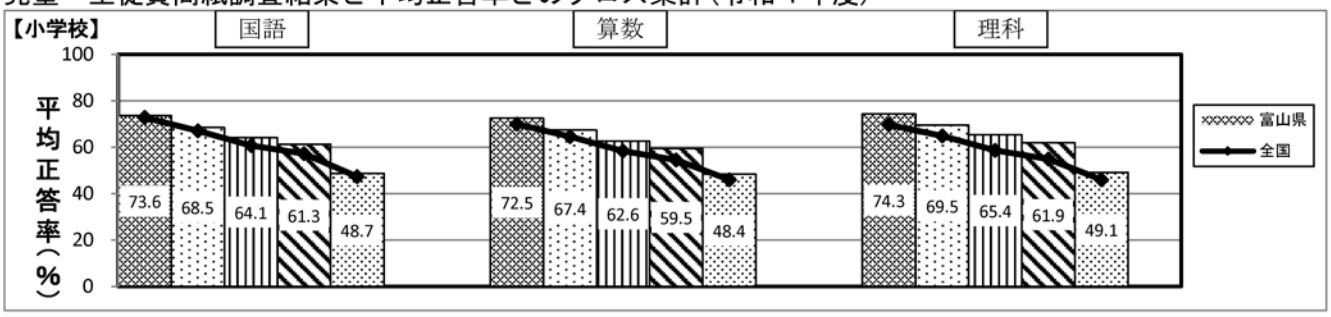
・「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校では6.5ポイント、中学校では8.5ポイント低い。

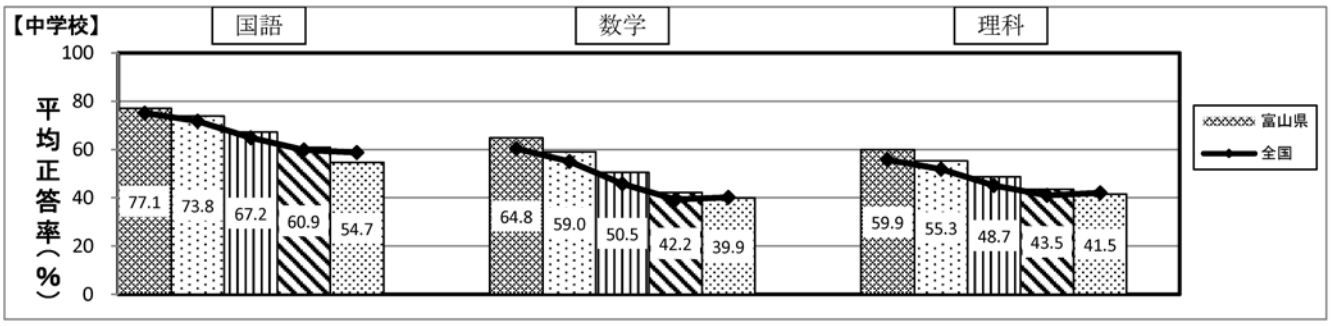
◎自分の考えが伝わるように発表するには、聞き手の立場に立ち、どのような工夫が効果的であるか考え、工夫して話すことができるようにすることが必要である。その際、目的や意図に応じた資料や文章の構成、展開になっているかなどについて検討することが求められる。また、自分の考えを整理して発表する機会を積極的に取り入れていくことも大切である。





児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計（令和４年度）



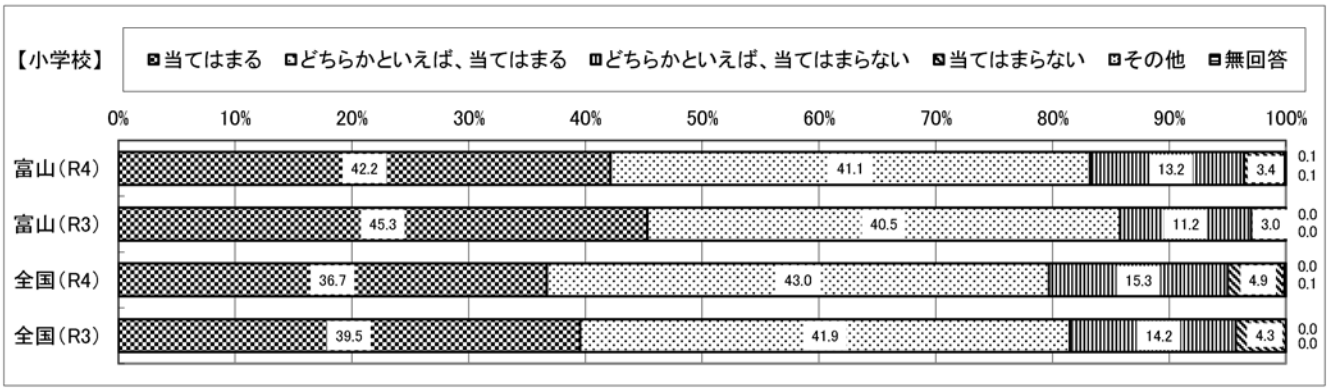


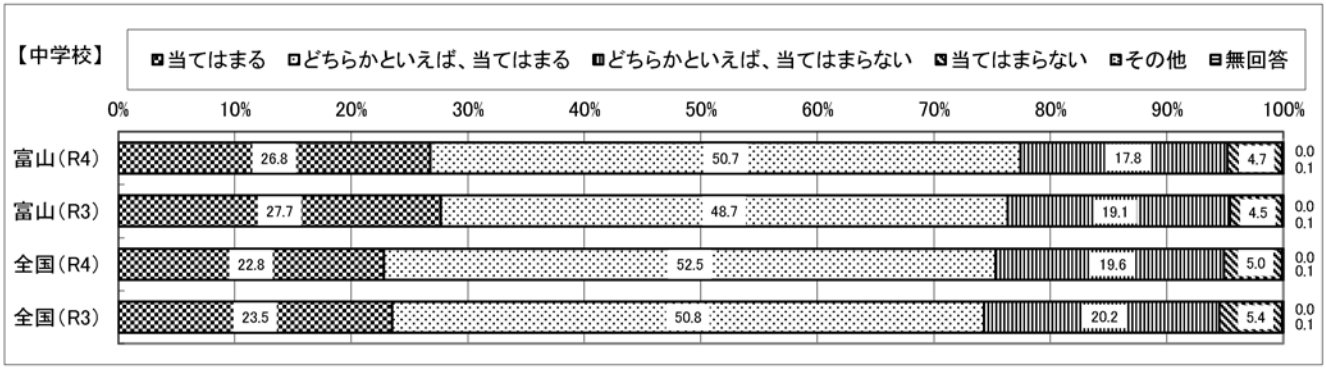
発表していた　どちらかといえば、発表していた　どちらかといえば、発表していなかった
発表していなかった　考えを発表する機会はなかった

(4)　５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか（質問小中 42）

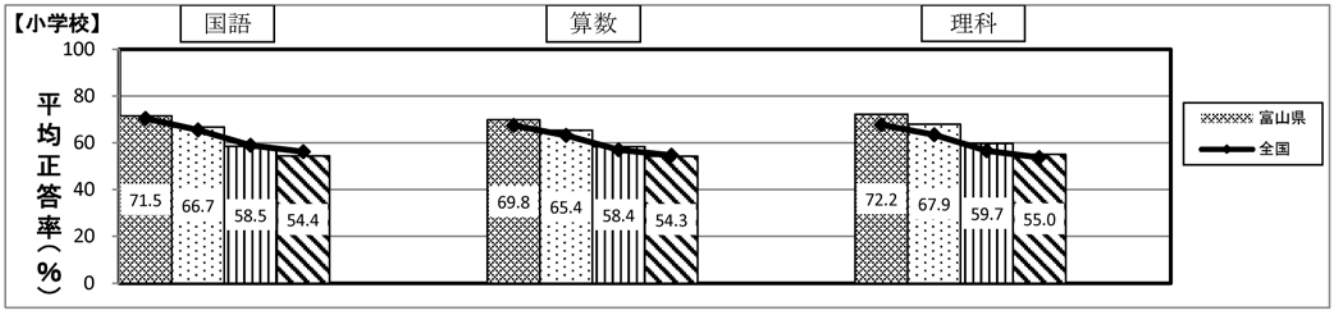
・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校では 3.6 ポイント、中学校では 2.2 ポイント高い。

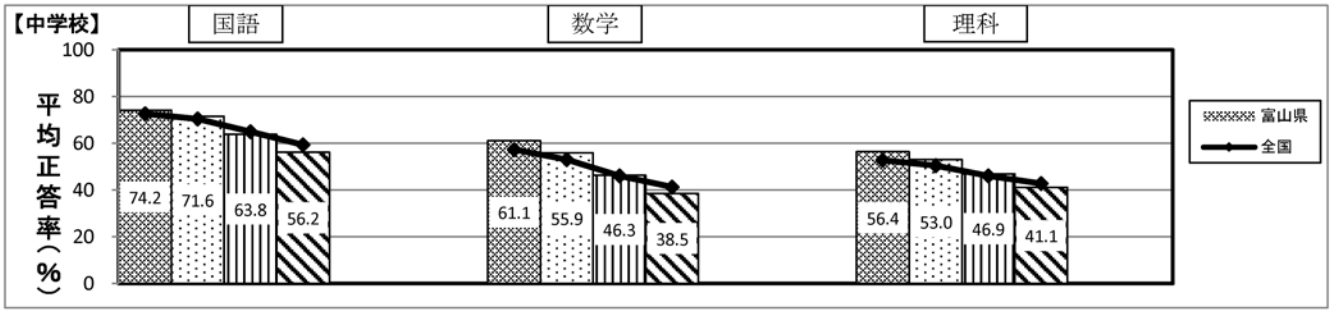
◎児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行ったり、児童生徒自身が自分に合った学び方を見いだせるよう支援したりするなどして、個別最適な学びをより一層充実させていくことが大切である。





児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計（令和４年度）



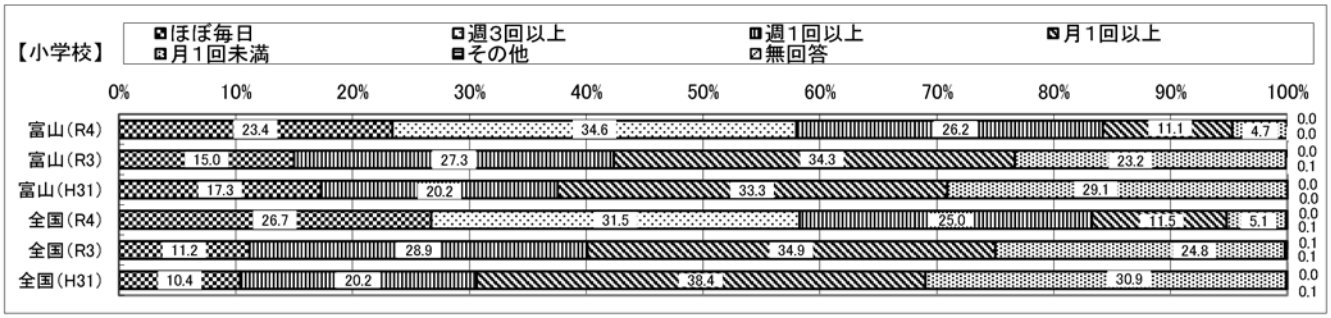


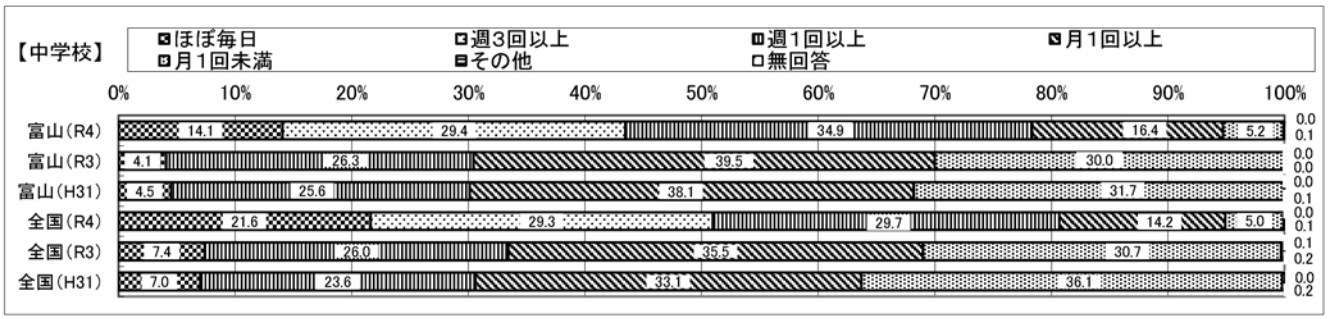
当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

２　ＩＣＴを活用した学習状況等

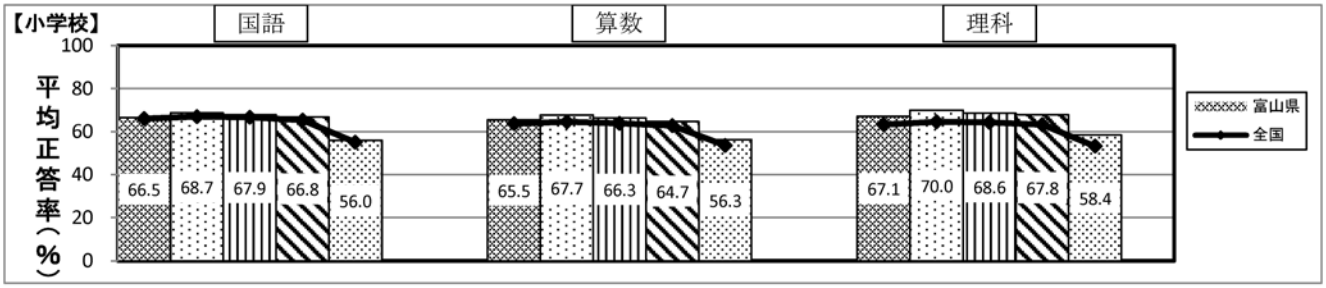
(1)　５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか（質問小中 32）
※平成 31 年度及び令和３年度においては、「週３回以上」の選択肢はなし。

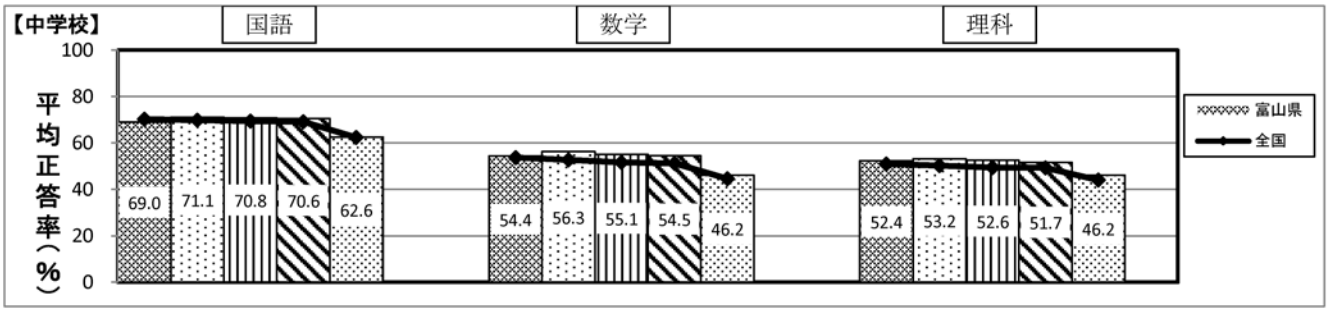
・ＩＣＴ機器の具体的な活用場面を示し、その頻度を問う質問が新設された。ＩＣＴ機器の使用頻度については、「ほぼ毎日」「週３回以上」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校では同程度、中学校では7.4ポイント低い。
◎情報活用能力の育成に向け、ＩＣＴ機器を学習ツールの一つとして日常的に活用することで、児童生徒自身がＩＣＴ機器を「文房具」として自由な発想で活用できるよう環境を整え、学習活動の充実を図ることが必要である。





児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計（令和４年度）



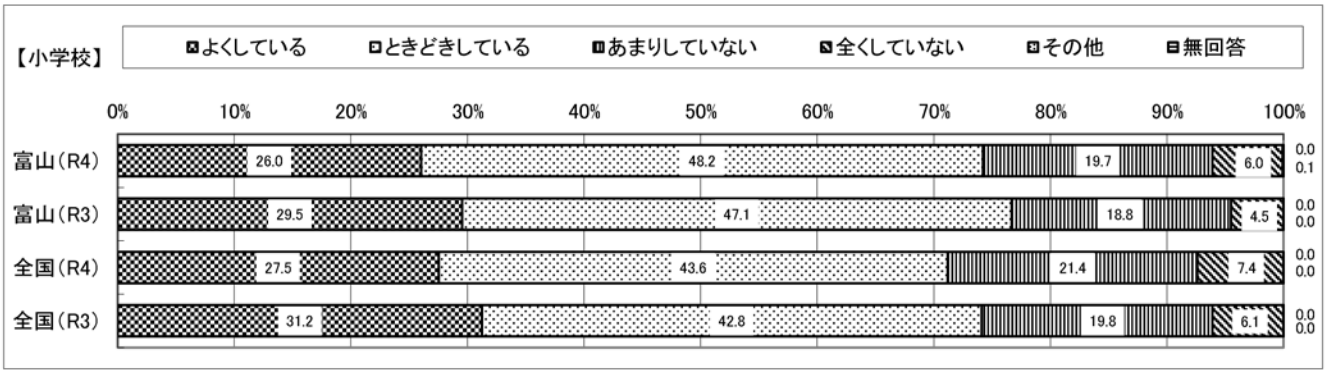


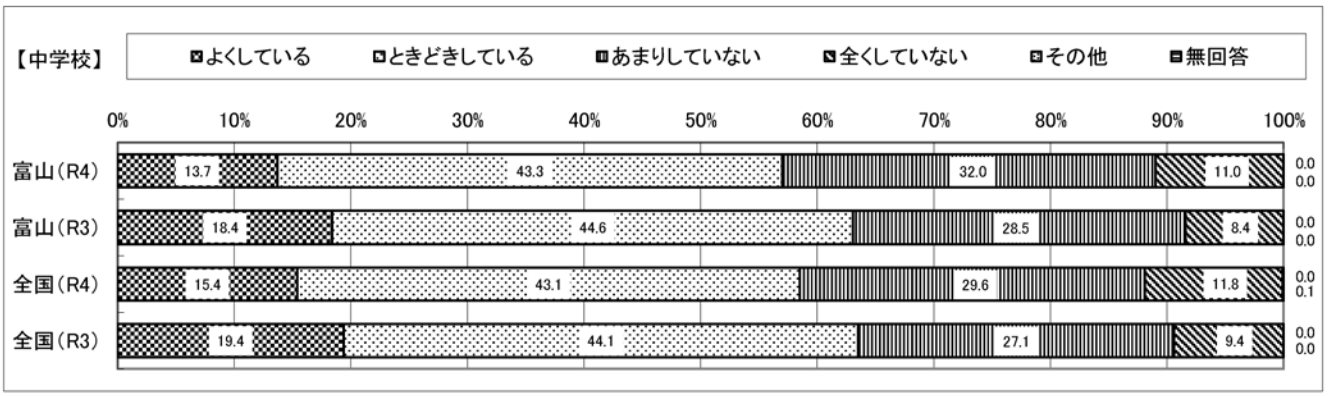
ほぼ毎日　週３回以上　週１回以上　月１回以上　月１回未満

３　学習習慣、基本的な生活習慣等

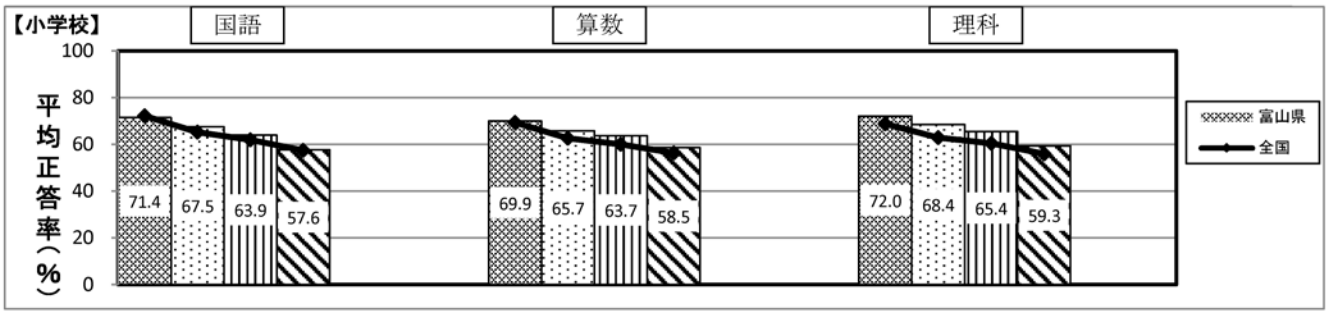
(1)　家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）（質問小中 20）

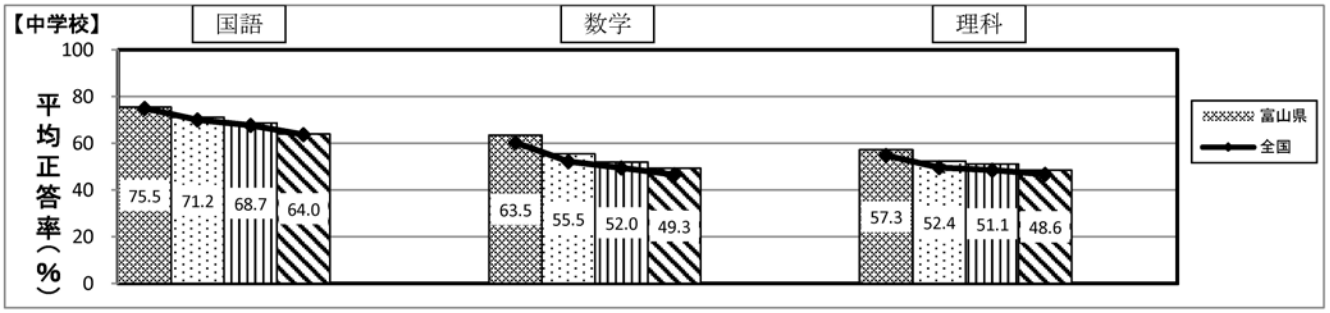
・「よくしている」「ときどきしている」と回答した児童生徒の割合は、令和３年度と比べて小学校では 2.4 ポイント、中学校では 6.0 ポイント低い。
◎保護者用リーフレット「家庭学習のすすめ」等を活用し、家庭との連携を図りながら、児童生徒が自分の生活時間を見直し、計画を立ててよりよく過ごすことができるようにすることが大切である。





児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計（令和４年度）





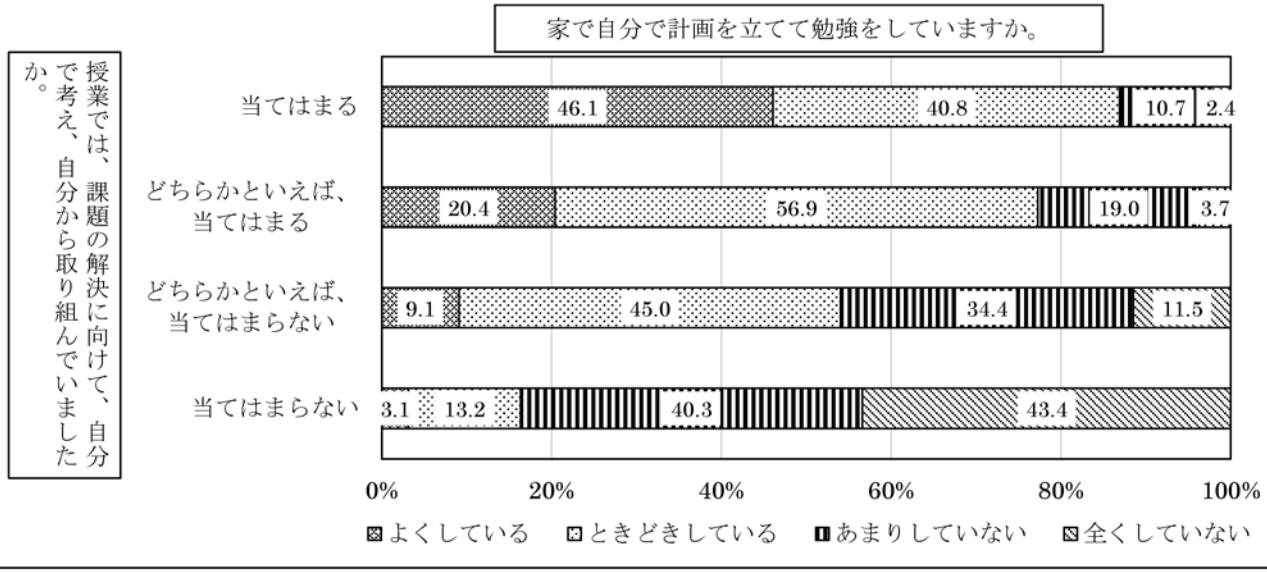
よくしている　ときどきしている　あまりしていない　全くしていない

質問 39（授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか）と
質問 20（家で自分で計画を立てて勉強をしていますか）のクロス集計

・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と肯定的に回答した児童生徒ほど「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した割合が高い傾向がみられた。
◎主体的に学習に取り組む児童生徒の育成に向けては、授業で学習したことを家庭で継続して調べたり、家庭で調べたことを授業で発表したりする場の保障等、学校の授業と家庭学習をつなぐための学習過程を工夫することが大切である。

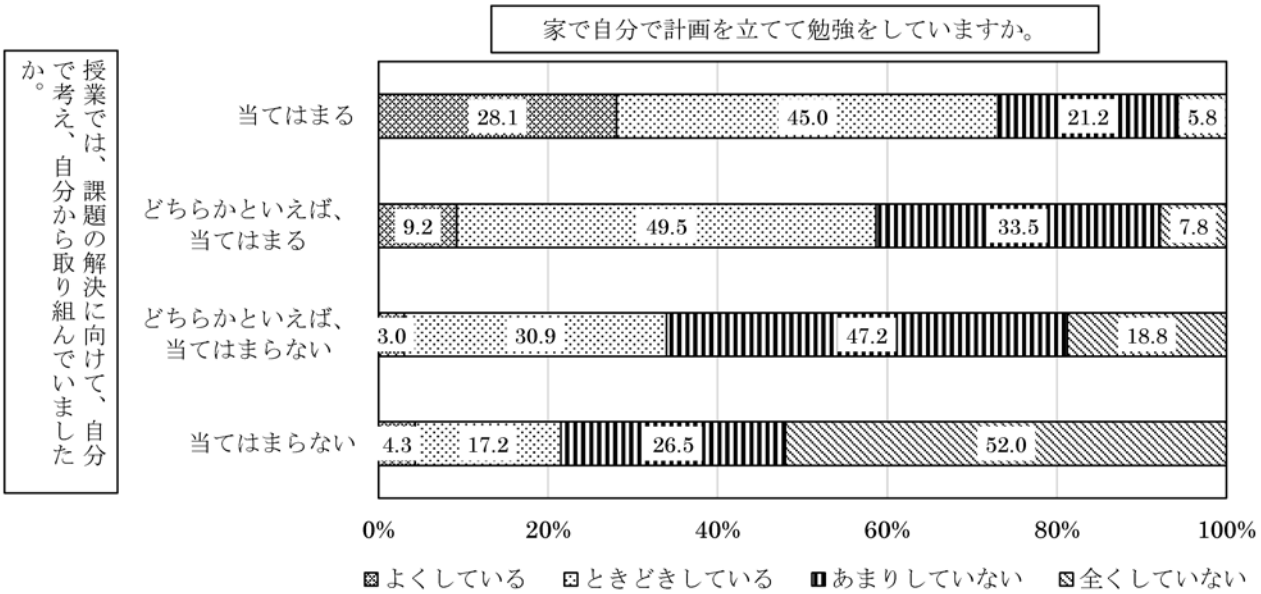
【小学校】

質問39：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 × 質問20：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



【中学校】

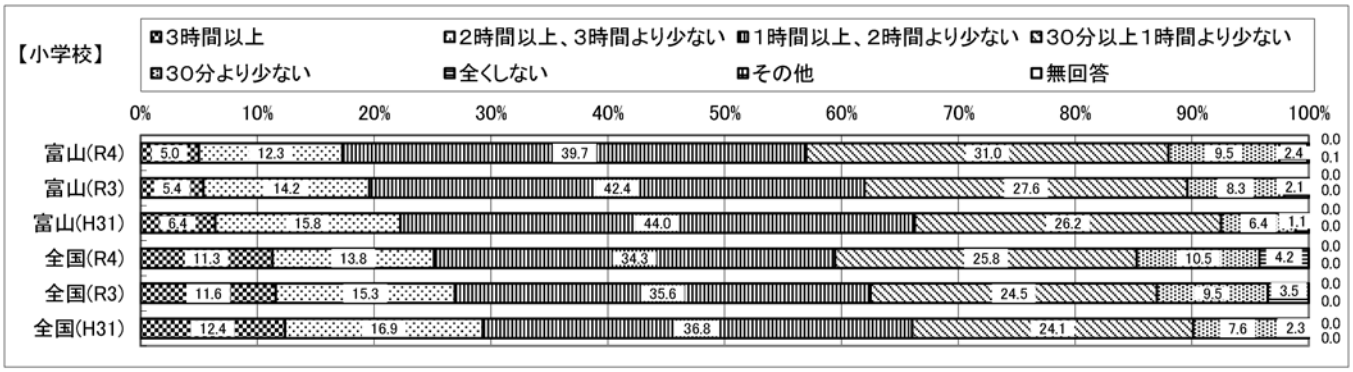
質問39：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 × 質問20：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

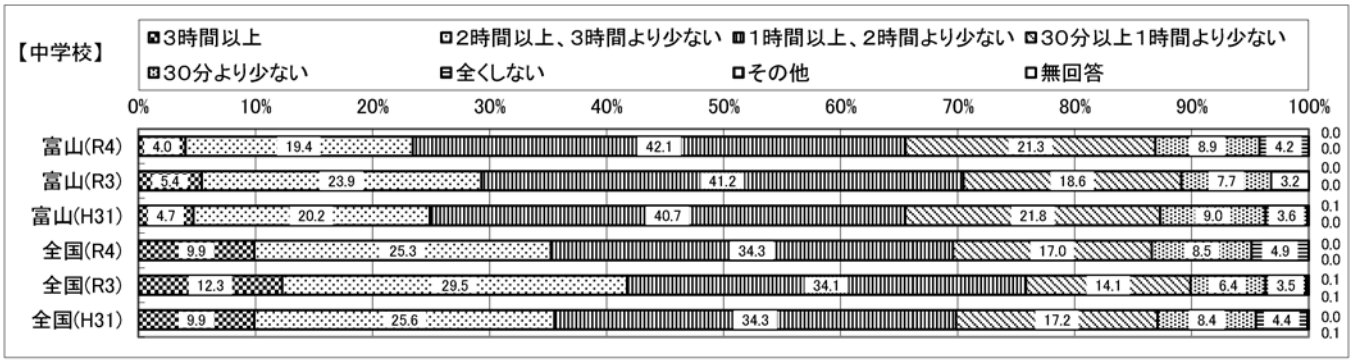


(2)　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（質問小中 21）

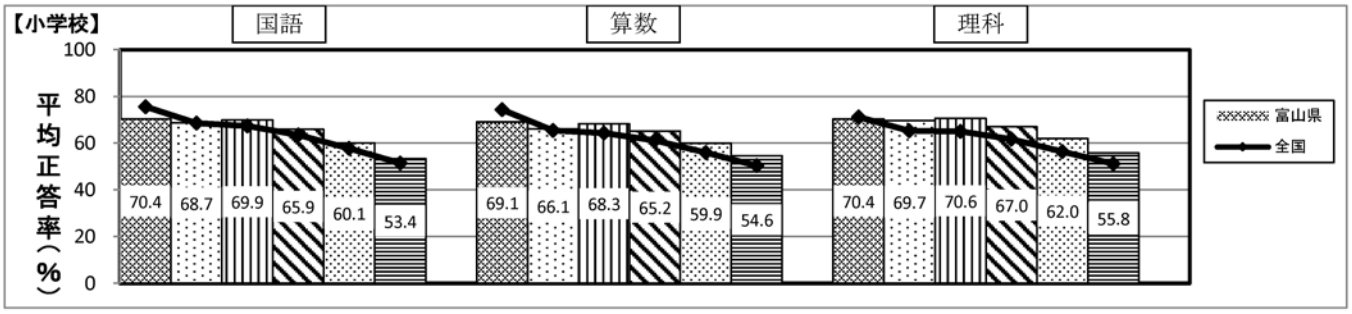
・「１時間以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校では全国と比べて2.4ポイント低く、令和３年度より5.0ポイント減少し、中学校では全国と比べて4.0ポイント低く、令和３年度より5.0ポイント減少している。また、「２時間以上」と回答した生徒の割合は、全国と比べて11.8ポイント低い。

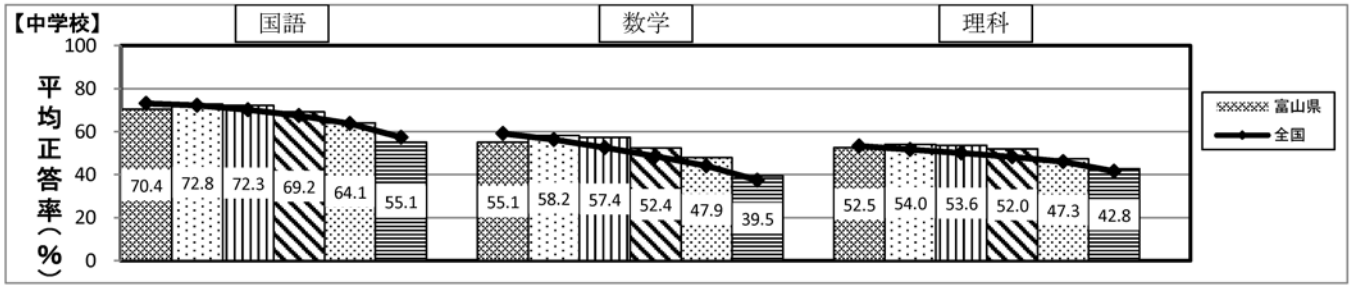
◎児童生徒に対して、宿題や予習・復習等の課題を量と質を考えて適切に提示したり、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方の指導をより一層充実させたりしていく必要がある。





児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計（令和４年度）

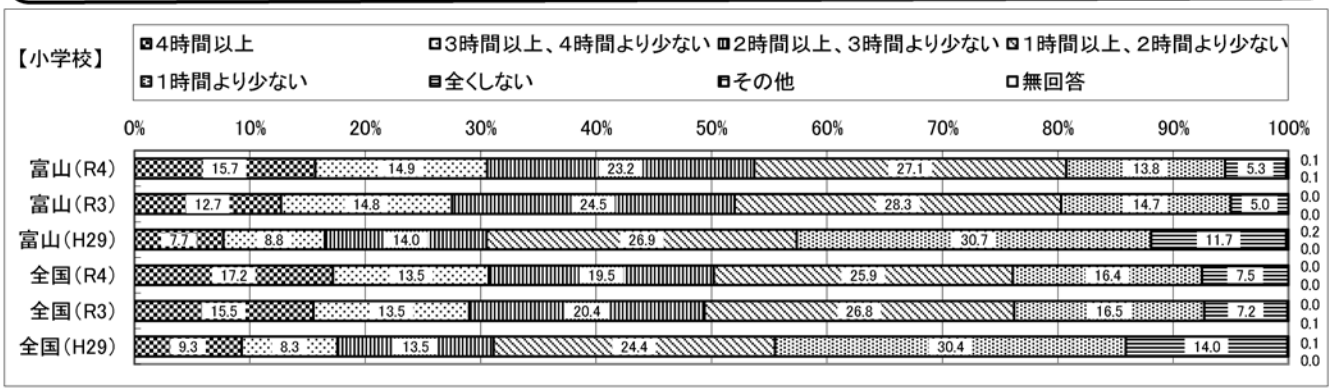


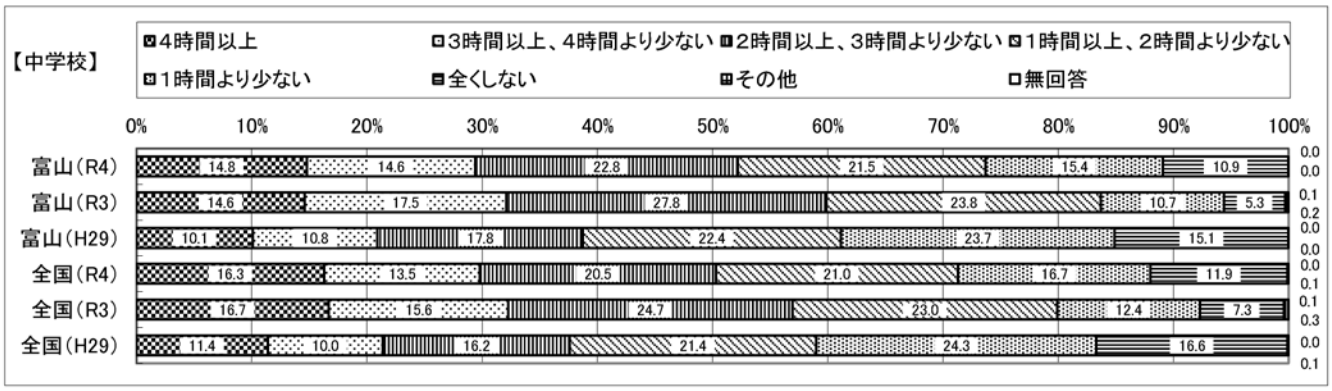


３時間以上　２時間以上、３時間より少ない　１時間以上、２時間より少ない
３０分以上、１時間より少ない　３０分より少ない　全くしない

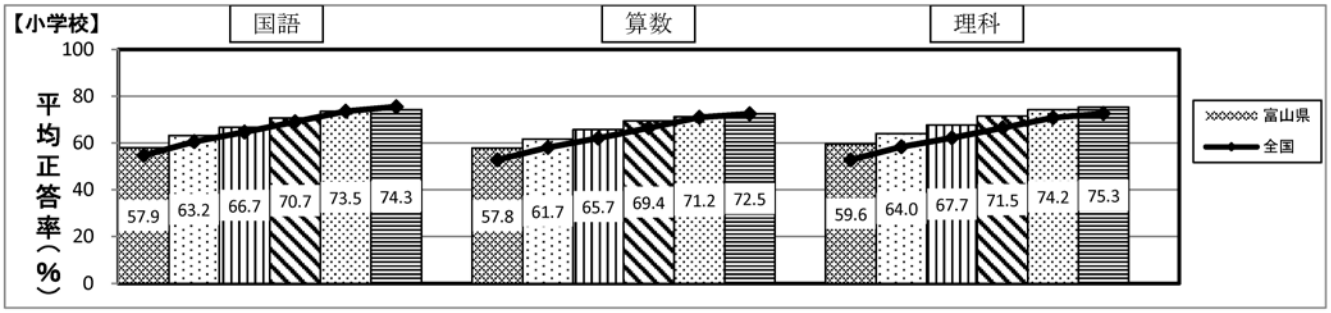
(3)　普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか（質問小中５）
※平成 30 年度及び平成 31 年度においては、この質問はなし。

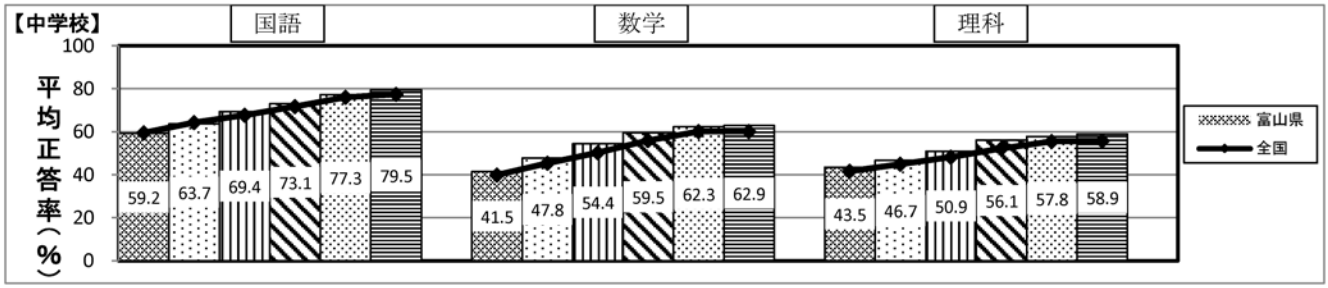
・１日当たりのゲーム等の使用時間については、「１時間以上」と回答した児童生徒の割合は、令和３年度と比べて小学校では同程度、中学校では大変減少しているが、全国と比べて小学校では4.8ポイント、中学校では2.4ポイント高い。
◎児童生徒の家庭での過ごし方について把握し、児童生徒が自らの生活時間を考える場を設けるとともに家庭に働きかける必要がある。生活時間について指導する際には、よりよい生活をするよさや意義に触れ、生活を改善していこうとする気持ちを養うことが大切である。





児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計（令和４年度）



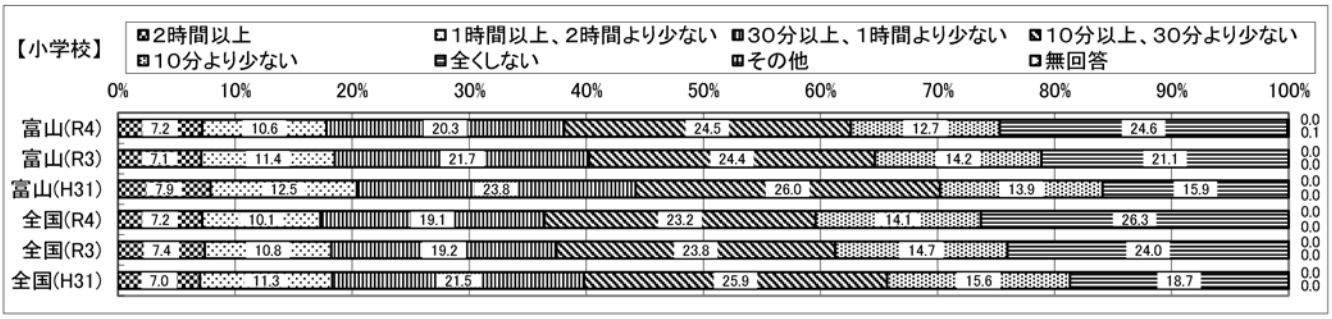


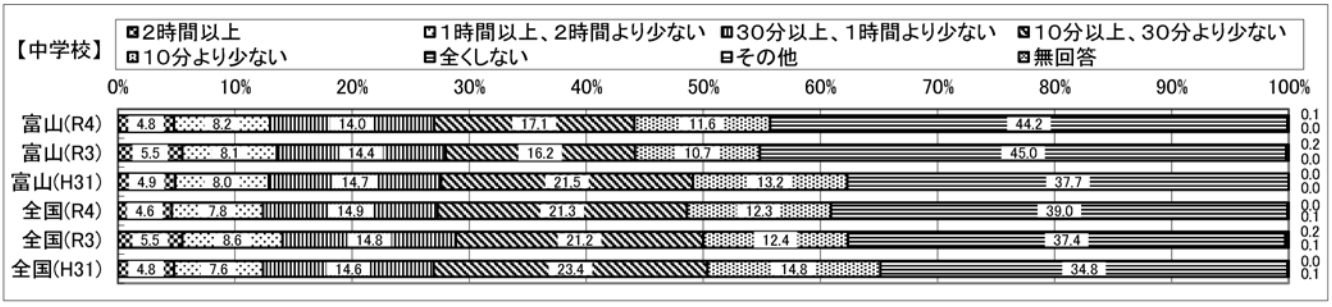
４時間以上　　３時間以上、４時間より少ない　　２時間以上、３時間より少ない
１時間以上、２時間より少ない　　１時間より少ない　　全くしない

(4)　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）（質問小中 23）

・「30分以上」と回答した児童生徒の割合は、令和３年度より小学校では2.1ポイント、中学校では1.0ポイント減少している。

◎読書は、言語能力を向上させる重要な活動の一つである。学校の教育活動全体を通して、児童生徒が読書意欲を高めることができるような取組の充実が求められる。



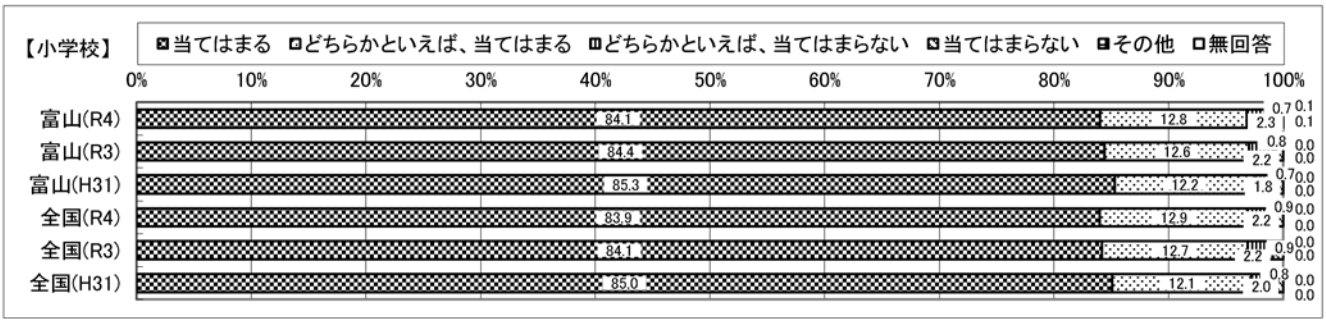


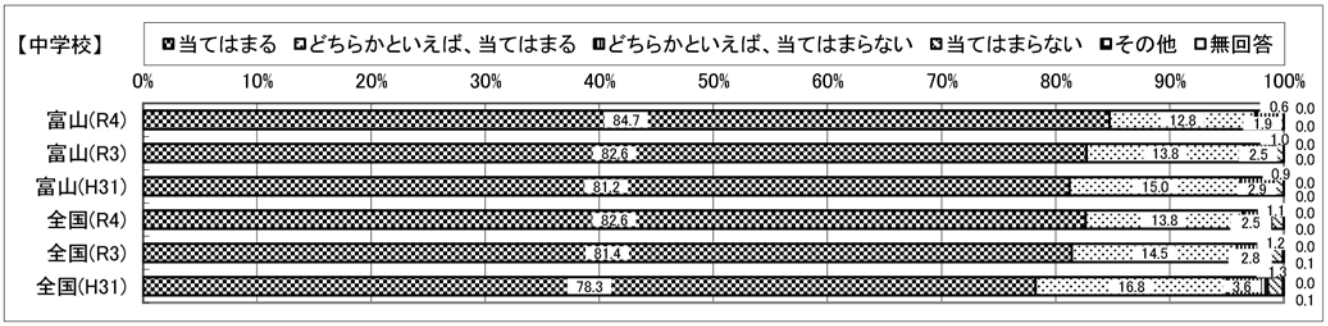
4　挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

(1)　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（質問小中 13）

・「当てはまる」「どちらかといえば、思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校では同程度であるが、中学校では1.1ポイント高い。

◎今後も、教師自身が高い人権意識をもち、児童生徒と共に人権の大切さについて考え、一人一人の考えや思い、行動には違いがあることを認め合える集団づくりに努め、他を思いやる心を育てることが大切である。

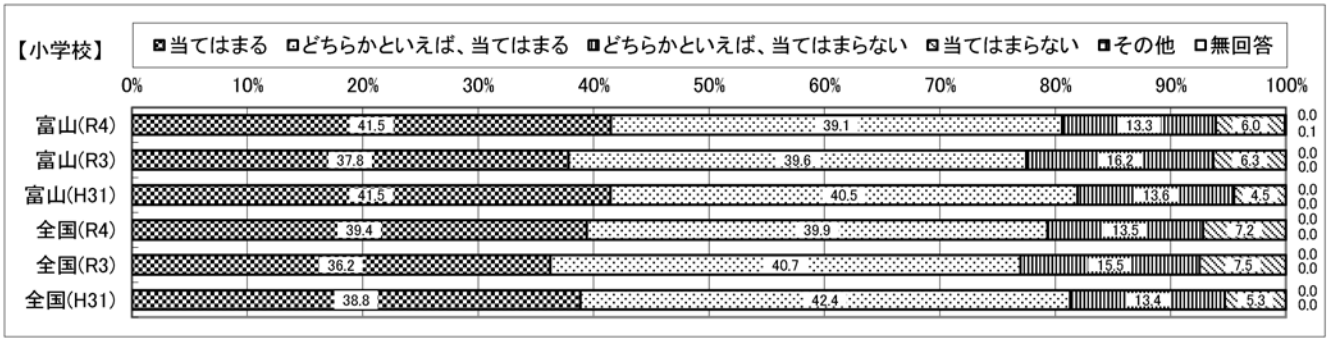


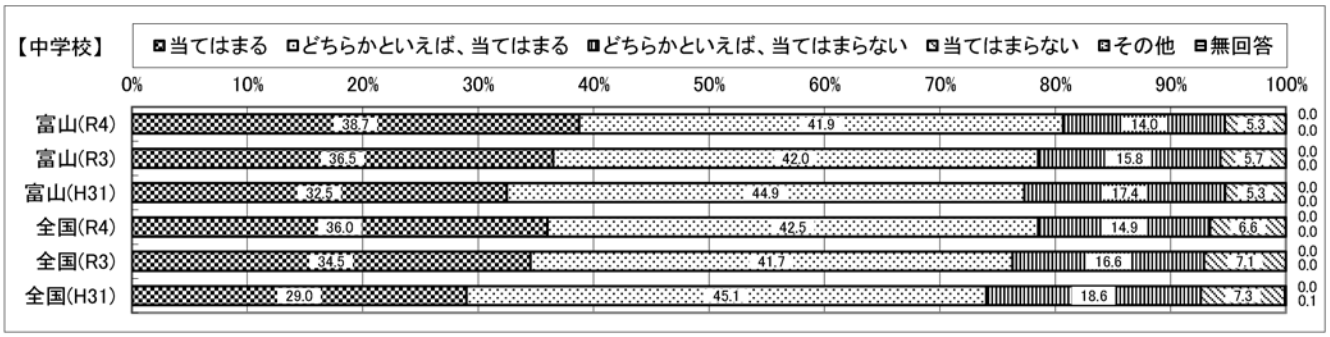
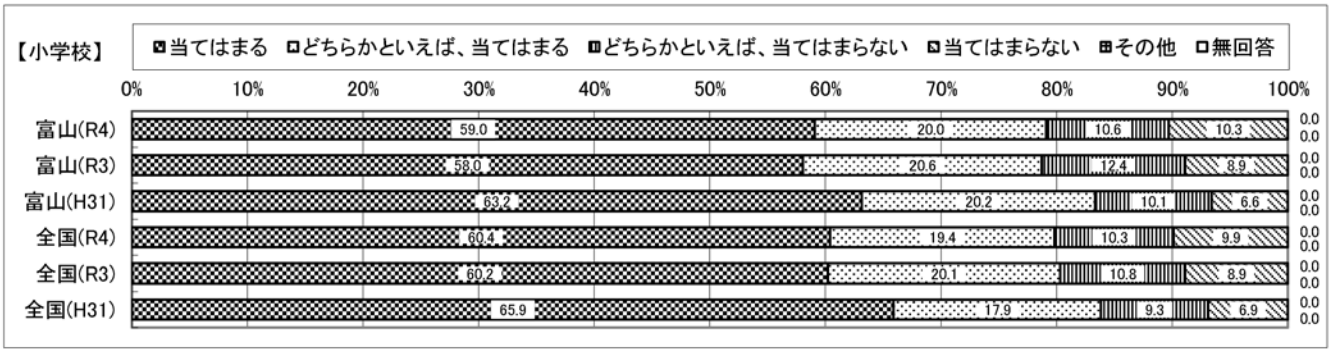
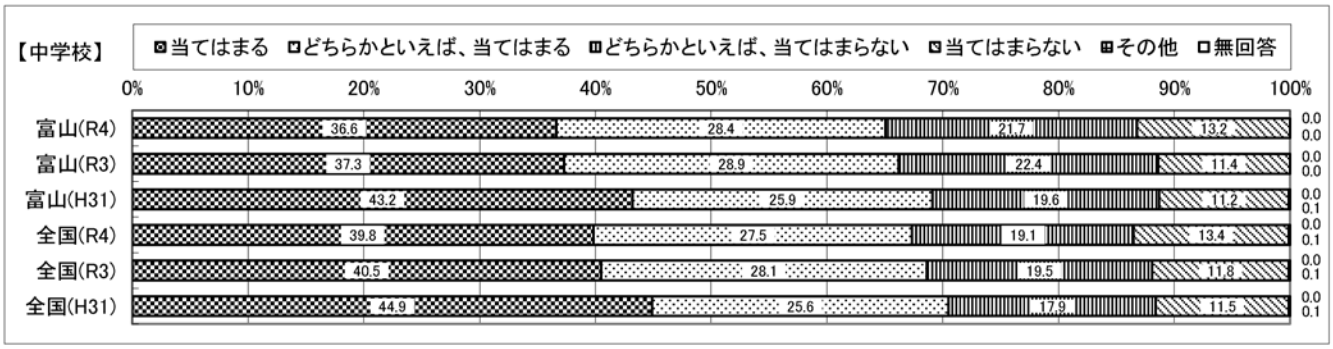


(2)　自分には、よいところがあると思いますか（質問小中７）
(3)　将来の夢や目標を持っていますか（質問小中９）

・「自分には、よいところがあると思う」「どちらかといえば、思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べてやや高く、令和３年度より小学校では3.2ポイント、中学校では2.1ポイント増加している。
・「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校では同程度、中学校では2.3ポイント低い。
◎児童生徒が自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を構築し、有意義で充実した学校生活を送る中で自己実現を図ることができるよう、指導の充実を図ることが大切である。

自分には、よいところがあると思いますか（質問小中７）





将来の夢や目標を持っていますか（質問小中９）